

令和元年9月吉日

関係者各位

函館市医療・介護連携推進協議会

連携ルール作業部会退院支援分科会

分科会長 福島 久美子

「はこだて入退院支援連携ガイドを活用した研修会」の開催について

拝啓

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、この度、函館市医療・介護連携推進協議会 連携ルール作業部会退院支援分科会および函館市医療・介護連携支援センターでは、事例をもとに「はこだて入退院支援連携ガイド」を活用した研修会を開催する運びとなりました。函館市内の入退院支援における相互の連携支援について、自職種のスタンダードな連携の在り方や所属機関によって異なる連携、さらに他職種の動き等をディスカッションすることで、相互理解の促進と顔の見える関係づくりができる機会として下記の内容で研修会を開催いたします。

敬具

記

『はこだて入退院支援連携ガイドを活用した研修会』

【日 時】 令和元年10月10日（木）18:30～20:00（受付18:00～）

【場 所】 函館市医師会病院5階講堂
（住所：函館市富岡町2丁目10番10号 電話：43-6000）【参加者】 退院支援看護師（5）、訪問看護師（10）、病棟看護師（10）
医療ソーシャルワーカー（10）、地域包括支援センター職員（7）、
居宅介護支援事業所ケアマネジャー（8）計50名【内 容】 事 例 「退院支援が必要な事例」
事例提供者 函館中央病院 退院支援看護師 奥山 ちどり 様

グループワーク「事例をもとにガイドを活用し適切な連携の在り方」を考える

※ご多用の折に大変ご迷惑をおかけしますが、参加を取りまとめて頂き、令和元年9月27日（金）
までにご連絡をお願いいたします。

[お問い合わせ先]

函館市医療・介護連携支援センター（函館市医師会病院内） 担当：佐藤，長谷川，中村，鎌田
電話：43-3939 FAX：43-1199 Email：ikr-center@hakodate-ishikai-hp.jp

R1.10.10 はこだて入退院支援連携ガイドを活用した研修会 アンケート集計結果 分析

n=47 (90.4%)

1. 所属機関をお聞かせください。

・病院	19	(40.4%)
・診療所	0	(0.0%)
・訪問看護事業所	10	(21.3%)
・地域包括支援センター	10	(21.3%)
・居宅介護支援事業所	8	(17.0%)
・その他(介護老人保健施設)	0	(0.0%)

2. 現在、従事されている職種をお聞かせください。

・保健師	1	(2.1%)
・看護師	20	(42.6%)
・リハビリスタッフ	0	(0.0%)
・相談員	13	(27.7%)
・事務員	0	(0.0%)
・ケアマネジャー	13	(27.7%)
・その他	0	(0.0%)

3. 研修会を受講し、医療・介護関係者の相互理解は深まりましたか？

・深まった	41	(87.2%)
・どちらともいえない	5	(10.6%)
・あまり深まらなかった	0	(0.0%)
・無回答	1	(2.1%)

【ご意見等】

- ・職種が違くと今までにない気づきがありました。
- ・ケアマネ側の思いや病院側の思いを知れました。
- ・各機関職種の声を直接聞くことができて良かったです。
- ・職種が違くと今までにない気づきがありました。
- ・各機関職種の声を直接聞くことができて良かったです。
- ・ケアマネ、訪看 ダブって同じ情報をサマリーに書いている。お互い欲しい情報を明確にして欲しい。
- ・他職種の方が必要としている情報や知らなかった活動内容等日ごろの思いやジレンマ等に触れ話し合うことができたと思いい良かったです。
- ・GWは盛り上がった。あつという間に時間が過ぎました。まだまだ話は足りないくらいでした。
- ・つぶやきが多く出たので見てほしい。
- ・互いにやって欲しい事や欲しい情報について理解できた。
- ・各業種の方との意見交換で日ごろの疑問が解消出来て良かった。
- ・訪看や病棟看護師がいて日ごろ聞けないことが聞けて面白かった。連携を深めるため活動している事考えていることが把握できた。
- ・居宅、訪看、MSW、地域包括の役割を知ることができた
- ・多職種協働にはそれぞれの立場を理解する、欲しい情報は異なることもあるという理解もとても大切だと思います。ひと昔に比べて随分相互理解が深まっていると実感しています。
- ・1時間では深まらない。
- ・GWにおいて介護側(在宅)は病院の仕組みやMSWの立場など理解したうえでより良い支援に向けての意見を出すのが、グループ内MSWからは「できない理由」についての返答が多く正直「連携は無理だな」と思ってしまう。もっと前向きな討論ができると良いと思いました。
- ・理解を深めるための第1歩だと思います。
- ・訪問看護やケアマネが必要と思っている情報がわかった。

4. 今回のようなガイドを使った研修会を続けてほしいですか？

・続けてほしい	44	(93.6%)
・どちらともいえない	2	(4.3%)
・続けなくても良い	0	(0.0%)
・無回答	1	(2.1%)

【ご意見等】

- ・ガイドで認識を統一できるとより良い支援につながると思うので。
- ・機会があれば参加したいと思いました。
- ・連携ツールを活用することは必要があるが、それぞれのやり方(サマリー等)もあり色々なツールがあるのもひと手間。それぞれの役割を理解して使えるのもっと有効的に使えるのではないか。在宅を見据えた支援を検討する時に入院中にもう少し関わる担当者の情報共有できる場があると良いのではないか。全体を通して顔の見える関係であることも連携という部分ではとても重要だと思う。
- ・まだ考えている以上に立場の違いですれがあることがわかったので上手な使い方を学びたい。
- ・リハ職が出席しても面白いかも。
- ・病棟看護師の方や訪問看護師等日ごろ話をなかなかできない方とのGWは面白い。
- ・病院の都合等がわかり勉強になりました。
- ・ヘルパーさんの参加もあれば良いと思います。
- ・病院看護師なので多職種との関わりを持つために続けてほしいと思う。
- ・出たことのない事業所、病院にこそ参加していただきたい。
- ・看護サマリーをすべてこの基本ツールにする取り組みをして欲しいです。
- ・研修GW中にガイドを確認する時間を取れるのもっと良いと思います。
- ・もっとCMが出席できていたらと思いました。

5. 今後、どのような内容の研修会を希望されますか？

【ご意見等】

- ・地域包括連携について。
- ・病院機能の紹介の場を作る。(お互いを知る)
- ・多職種で意見交換できるもの。
- ・同様の内容で看護師も病棟師長、主任などの出席がもしあるともう少し医療職内でも普及するのかもと考えます。内容は同じで大丈夫だと思います。
- ・事例検討。
- ・事例を通して具体的な話が出来たらと思います。
- ・症例検討 報告等。
- ・今回初めてこのツールを知りました。様々な情報が入っており使いやすいので函館のどの施設でもこの用紙を使うような、もっとこのツールを広めるような研修を希望。
- ・リハビリ、病棟看護師も含めた研修(Dr.も)今回同様にGWを複数回行うなど。

6. その他、ご意見等ございましたらお書きください。

- ①出席メンバーの固定化(マンネリ化)があるような気がします。続けていくのは決して悪いことではないです。ある程度人数がいる機関や部署の方々への案内時には「出たことが無い方」「前回とは別の方」と条件を付けるのも面白いかも知れません。②参加者に「ガイドを使っての連携について」「普及のために自分たちの立場でやれること」等グループワークを試みるのも面白いかも知れません。
- ・他職種で話が来て良かったです。
- ・ファシリテーターとして参加させていただきました。大変勉強になりました。ありがとうございます。
- ・時間が少し短かったです。
- ・実りある研修ありがとうございます。準備から開催にかけて大変お疲れさまでした。
- ・顔の見える関係づくりもできた。MSWとのつながりを深めたい。
- ・時間外ではなく時間内の開催を希望。可能なら土曜日の午前とか。
- ・他の職種の方々とお話しできることが良かったです。